

県指定有形文化財（考古資料）

金銀装円頭大刀

Sword with a Pommel having a Rounded Hilt End

浜松市文化財課

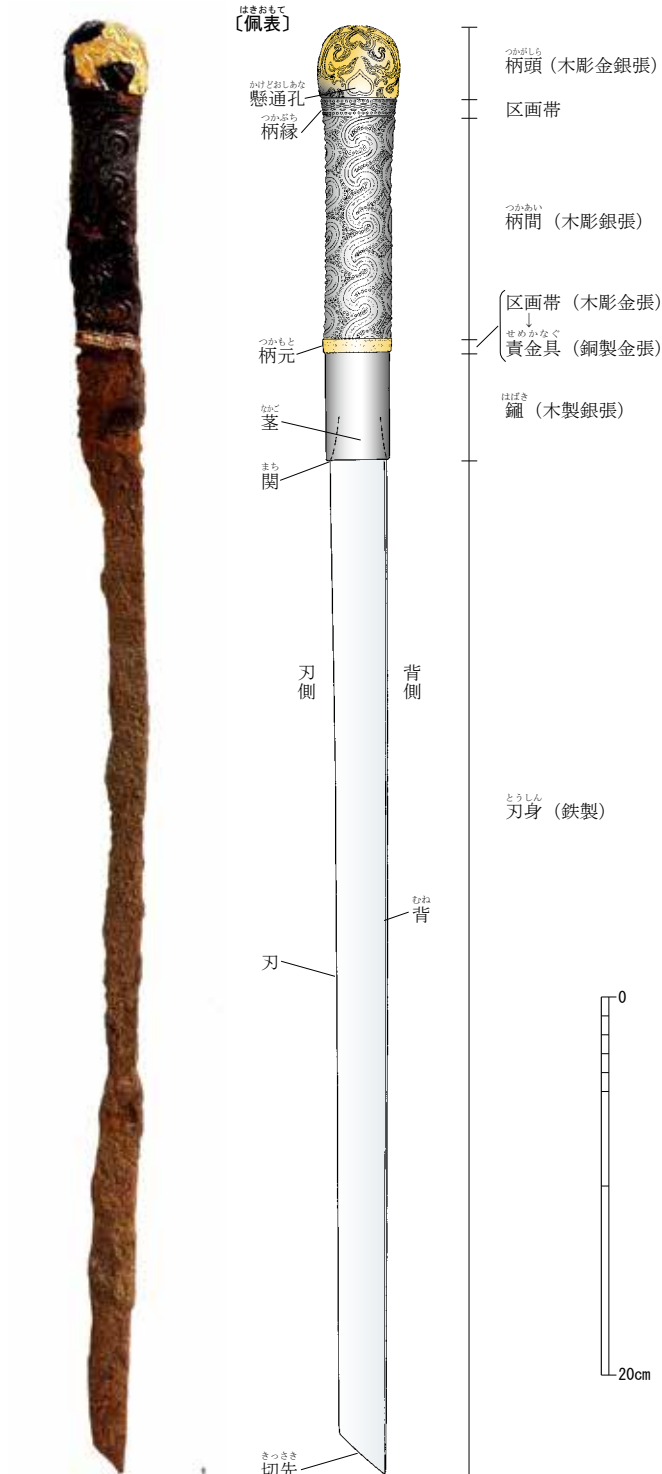
Hamamatsu City, Cultural Properties Division



金銀装円頭大刀は、浜松市中区森田町の鳥居松遺跡から出土しました。鳥居松遺跡は伊場遺跡群を構成する遺跡で、2008年に実施した5次調査で自然河川「伊場大溝」を確認しました。大刀はこの伊場大溝の川底から、鞘から抜かれた状態で出土しました。「抜き身」の状態で川底に沈められたと考えられます。同じ土層から出土した土器の特徴から大刀が沈められた時期は6世紀後葉頃とみられます。大刀は、長さ76.5cm、厚さ4.4cmです。柄はカエデ属の木材を用い、木彫の上

から金板や銀板を張る木彫金銀張技法で作成されています。柄頭には猪目形の懸通穴を挟み2頭の龍が表現され、高純度の金板で覆われています。柄間には連続した波頭文が彫られ、銀板が被せられています。類似した特徴をもつ装飾付大刀は国内に例がありません。朝鮮半島において6世紀前葉に製作されたものと考えられます。なお、柄頭には、やや純度の低い金板の張り直しや、金や銀の銚を用いた補修がみられます。

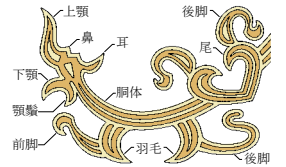
この金銀装円頭大刀は、製作時期と製作地、補修を伴う使用過程、儀式への使用など出土に至るまでの履歴を明確にあとづけられる点でも重要です。



金銀装円頭大刀と大刀の部位名称

柄頭にあしらわれた龍の模式図

柄頭にあしらわれた2頭の龍は、大きく口が開き、尾は絡み猪目形（ハート形）に表現されています。



金銀装円頭大刀の柄と柄の復元図

柄間には、連続した波頭文が彫刻され、その周囲には連珠文や図形文があしらわれています。銅製金板張の貴金具の下には、木彫に金板を張った区画帯があります。柄頭の補修と同時期に貴金具を用いた補修が行われたとみられます。

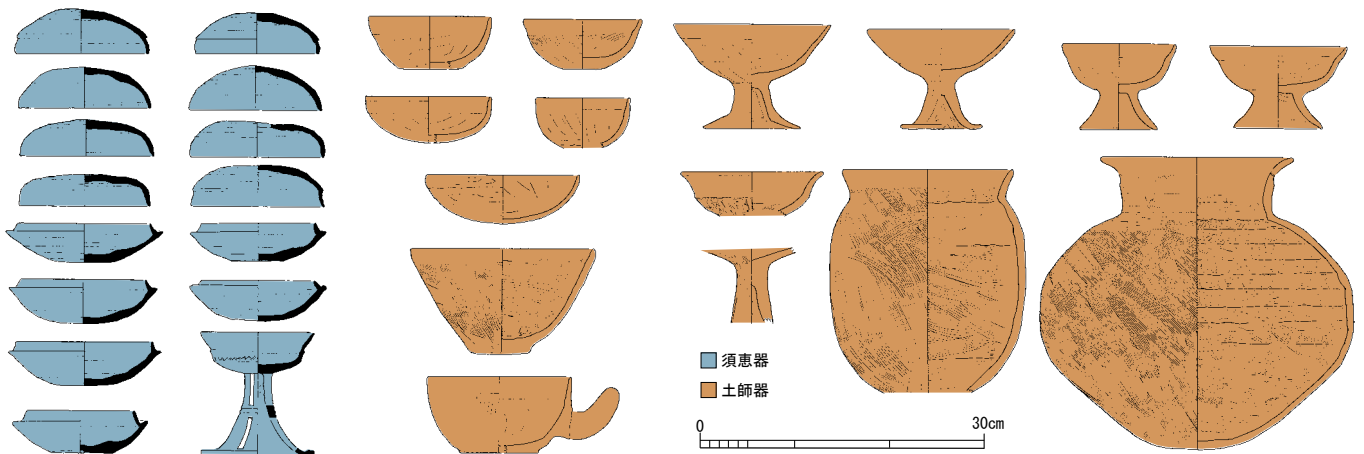
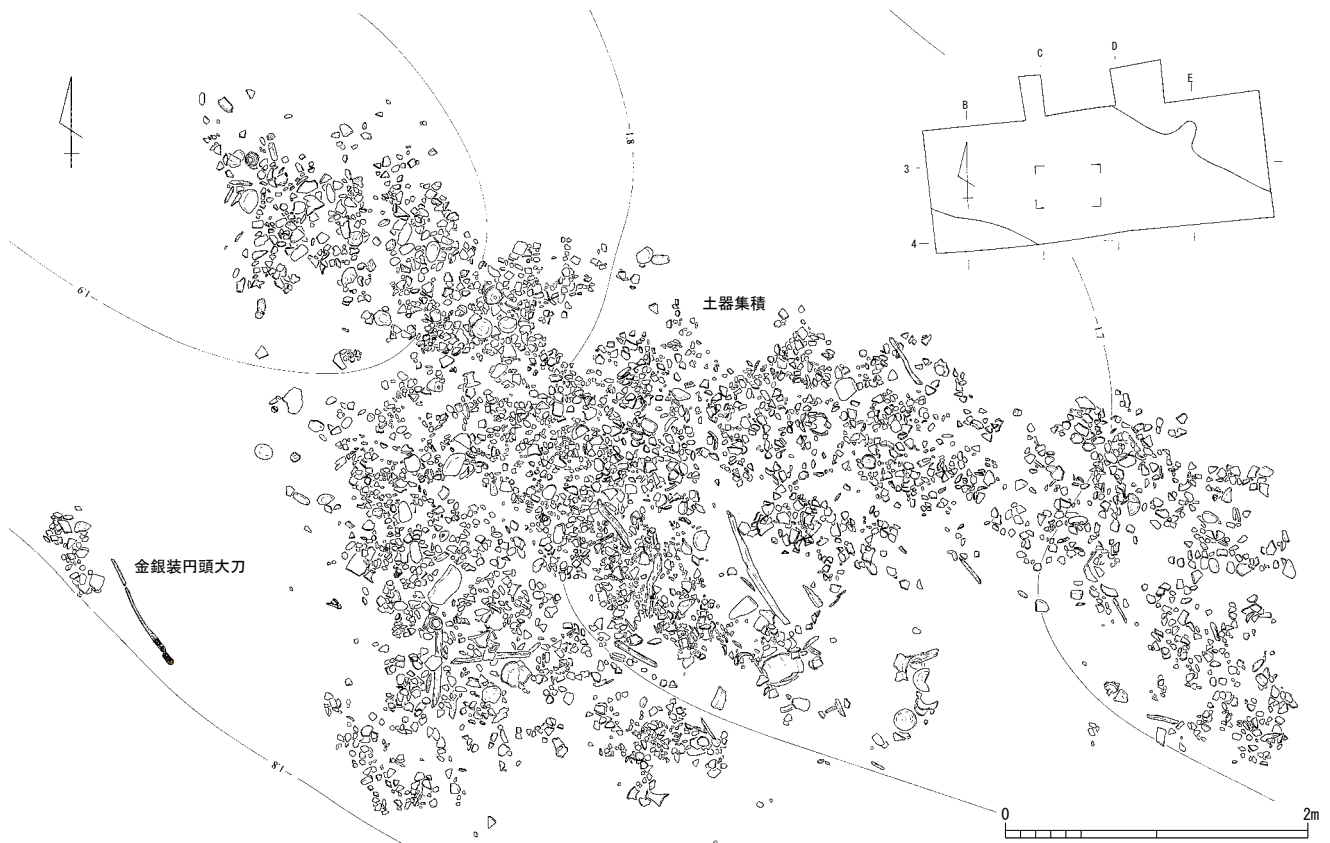
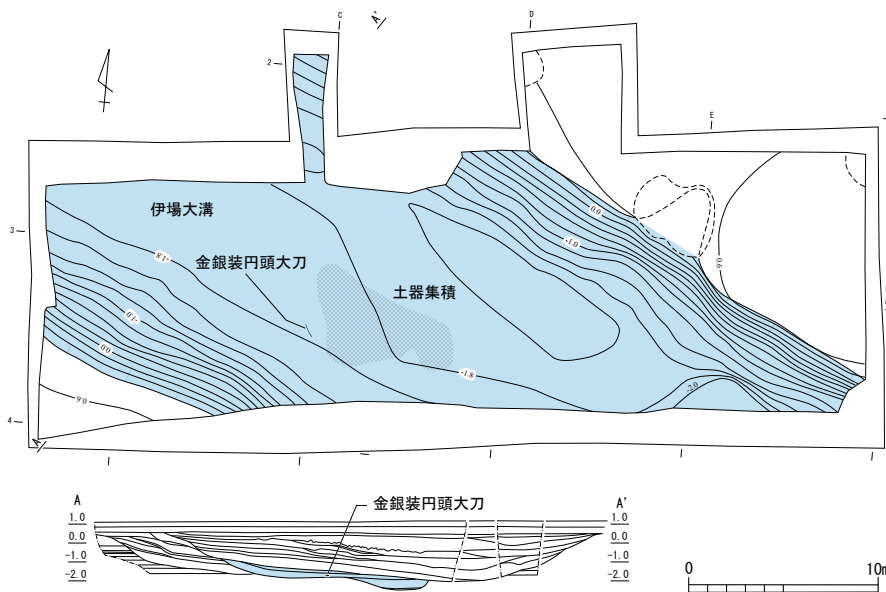


柄頭の補修痕跡

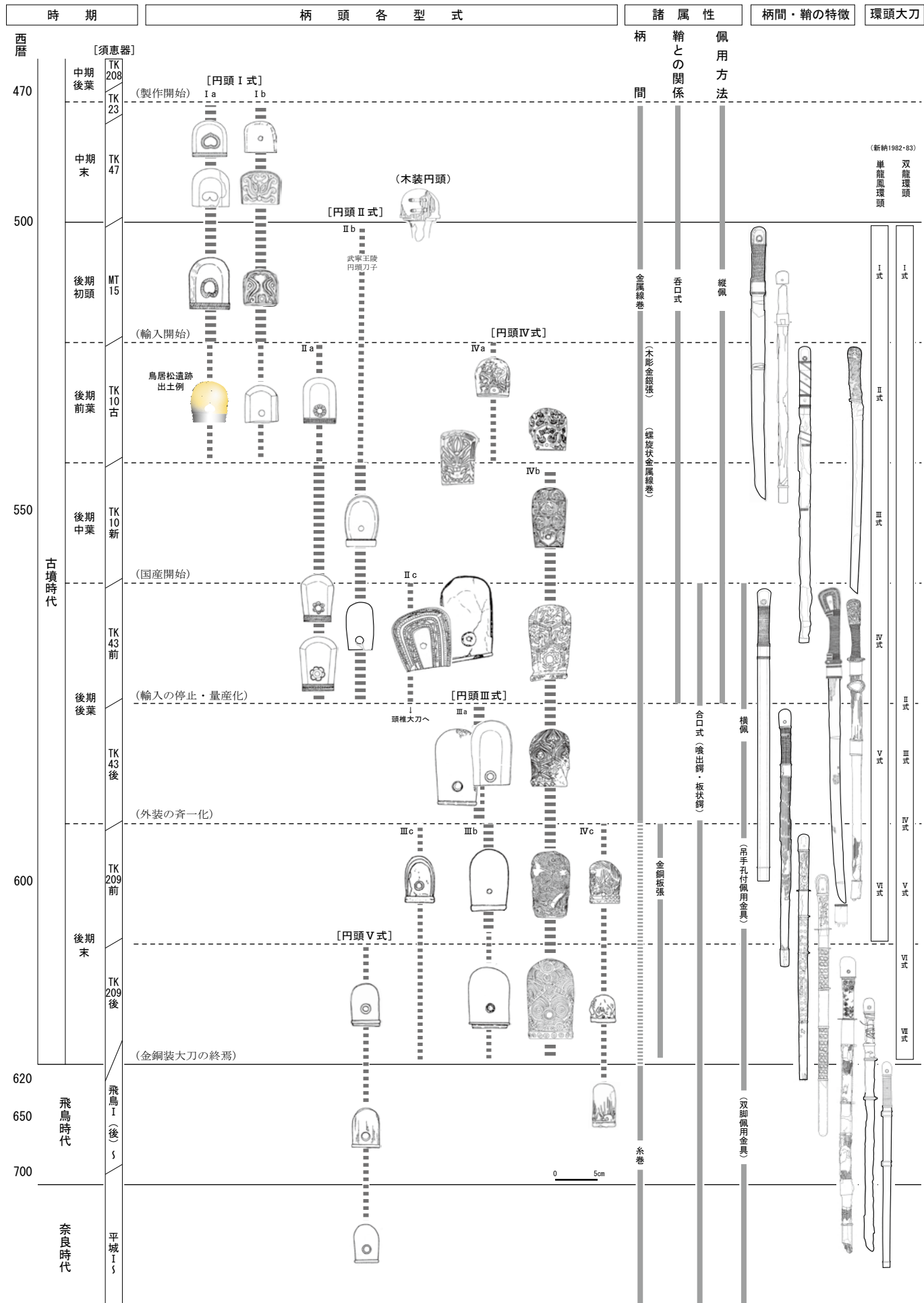
柄頭には、銚のような形状をした銚を用いて補修した部分がみられます。珍しい補修技法です。



円頭大刀と同じ地層から出土した土器
伊場大溝に沈められた金銀装円頭大刀と同じ地層から6世紀後葉の土器が大量に出土しています。円頭大刀が伊場大溝に沈められた時期を示す重要な資料です。出土した土器は食器に偏っていることや、完全な形のものが集中的に出土していることから、何らかの祭祀に用いられた土器群（土器集積）とみられます。



金銀装円頭大刀と同じ地層から出土した須恵器と土師器



円頭大刀の変遷

詳細は、(財)浜松市文化振興財団 2009『鳥居松遺跡5次 円頭大刀編』参照 (奈良文化財研究所運用のHP「遺跡報告総覧」にて閲覧可能)